

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長  
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第7号を下記のとおり発表したので送付します。

令和2年度病虫害発生予報第7号

令和2年10月1日  
岡 山 県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水 稲	トビイロウンカ	—	多
ダイズ	ハスモンヨトウ	—	やや多
果 樹	カメムシ類	—	やや多
キュウリ	褐斑病	—	やや少
キュウリ・ナス	ミナミキイロアザミウマ	—	並
アブラナ科野菜	ハクサイ白斑病 ハクサイべと病 軟腐病 黒腐病 コナガ ヨトウガ アブラムシ類 モザイク病 ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ オオタバコガ	— 並 — 並 — — — — — — —	並 並 やや少 並 並 やや多 やや多 やや多 やや多 並 並
キ ク	ナミハダニ オオタバコガ	— —	並 並

## 1. 普通作物

### (水稲)

#### 1) トビイロウンカ

予報内容

発生量 **多**

予報の根拠

ア. 9月24～25日の巡回調査(中南部地帯)では、発生圃場率は89.5%で平年(17.5%)より高かった。

イ. 9月24日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 令和2年度病害虫発生予察注意報第3号(7月9日発表)、病害虫発生予察警報第1号(8月19日発表)、植物防疫情報第8号(9月3日発表)、植物防疫情報第10号(9月25日発表)参照。

### (ダイズ)

#### 1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は4,564頭で平年(2,055頭)より多かった。

イ. 9月1～2日の巡回調査における白化葉(被害葉)の発生圃場率は17.4%で平年(19.9%)並であった。

ウ. 9月24日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 令和2年度植物防疫情報第9号(9月7日発表)。

## 2. 果樹(全般)

### 1) カメムシ類

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における9月1～5半旬の誘殺数は、チャバネアオカメムシは122頭(平年80.6頭)、クサギカメムシは7頭(平年3.2頭)、ツヤアオカメムシは138頭(平年2.0頭)でいずれも平年よりやや多かった。

## 3. 野菜

### (キュウリ)

#### 1) 褐斑病

予報内容

発生量 **やや少**

予報の根拠

ア. 9月23日の巡回調査によると発生圃場率は66.7%で、平年(96.0%、過去10年のうち9年間は100%)より低かった。

イ. 9月24日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ないとされており、特に発病を助長する条件ではない。

(キュウリ、ナス)

1) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月23、24日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

イ. 9月24日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

(アブラナ科野菜)

1) ハクサイ白斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月23、24日の巡回調査によると発生圃場率は27.3%で、平年(25.1%)並であった。

イ. 9月24日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ないとされており、特に発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 秋作では生育中期から結球期に初発生することが多いので、初期防除を徹底する。

2) ハクサイべと病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月23、24日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(6.6%)並であった。

イ. 9月24日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ないとされており、特に発病を助長する条件ではない。

3) 軟腐病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 9月23、24日の巡回調査によると、ダイコンでは発病圃場率は14.3%で平年(26.5%)よりやや低かった。ハクサイでは発生を認めず、平年(1.3%、過去10年のうち9年間は0%)並であった。

イ. 9月24日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ないとされており、特に発病を助長する条件ではない。

4) 黒腐病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月23、24日の巡回調査によるとキャベツでは発生を認めず、平年（6.8%、過去10年のうち7年間は0%）並、ハクサイでは平年同様発生を認めなかった。

イ. 9月24日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ないとされており、特に発病を助長する条件ではない。

5) コナガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は1頭で、平年（1.8頭）よりやや少なかった。

イ. 9月23、24日の巡回調査によるとダイコンでは発生圃場率が0%で平年（40.4%）より低く、キャベツでは20%で平年（5.9%）より高く、ハクサイでは0%で平年（2.2%）並であった。

ウ. 9月24日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

6) ヨトウガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月23、24日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

イ. 9月24日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

7) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性モザイク病

予報内容

発生量 アブラムシ類 **やや多**  
モザイク病 **やや多**

予報の根拠

ア. 赤磐市の黄色水盤における9月1～5半旬の飛来数は1,120頭で平年（736頭）より多かった。

イ. 9月23、24日の巡回調査によると、ダイコンでは発生圃場率が20%で平年（0%）より高く、キャベツでは0%で平年（2.5%）よりやや低く、ハクサイでは0%で平年（2.5%）よりやや低かった。

モザイク病は、ダイコンの発生圃場率が42.9%で平年（12.9%）より高く、ハクサイの発生圃場率は9.1%で平年（0%）よりやや高かった。

ウ. 9月24日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

8) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は4,564頭で平年（2,055頭）より多かった。

イ. 9月23、24日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月24日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並か高く、降水量は平

年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。  
防除上の参考事項

ア. 令和2年度植物防疫情報第9号（9月7日発表）。

9) ハイマダラノメイガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月23、24日の巡回調査によると発生量は平年並であった。

イ. 9月24日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

10) オオタバコガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は0頭で、平年（3.0頭）よりやや少なかった。

イ. 9月23、24日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月24日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

4. キク

1) ナミハダニ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月23、24日の巡回調査によると発生圃場率は0%で、平年（1.7%）並であった。

イ. 9月24日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

2) オオタバコガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は0頭で、平年（3.0頭）よりやや少なかった。

イ. 9月23、24日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月24日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、  
<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

